岩中對盛中のラグビー戰

純潔な精神を生命に戰ふた岩中軍大勝す——

題目はこう書いたものの内容は批評的のものでもなくただ戰況經過を幾らか吟味した譯ですから御承知下さい。

十一月三十日岩中盛中相會する日、珍しくも空に片雲だに見ない快晴の日であつた。たゞし朝來の北風は膚寒く秋の末をまざ〳〵と感じさせた。けれどもラグビーファンにとつては今や勢力相拮抗してゐる岩中盛中が全勢力を傾倒して一氣に雌雄を決せんとする特殊の意氣と熱と力とがこめられてゐる意義ある此の對抗第一回戰は熱狂的視聽を集めてゐるのだつた。

今春は醫專チームを破り先日は二高軍のコーチを受け脂ぎつてゐる盛中に對し如何やうな戰をするのか他校試合の全く未知の岩中のプレヤーの力は果してどの程度のものであるか試合前の噂では四分六分で岩中に分があるといふ者あり又斷然勝味がないといふ者がありこうした豫想のとり〳〵話は闘志にいやが上にも奮ひたち戰前すでに凄壯な雲圍氣が漲つてゐた。……

若き母校の名譽の爲に!!純潔な精神を生命に光輝ある歴史を築かなければならない。——こうした我が岩中十五人のラガーは感激と緊張と沈默とに滿ちた北風のただ中に起つて死んでも勝たなければならない試合に面したのであつた。

黑に橙のユニフォームは岩中フイフティーン、綠に海老茶は盛中チームである。この二色が入り亂れ搔き亂れ淡褐色の盛中フヰールドで活躍するのであつた。

やがて輕快なウォーム、アップが終つた——と急轟のやうな拍手がフヰールドを包む……

丁度午後二時十分ホイッスルが朗らかに寒空に響いた、レエフリーは池田氏タッチジャッチには岩中から宇都宮君盛中から川邊君が各々出た……(前半)

岩中は梅津の低く强蹴のキックオフに右翼を衝く、盛中F・W高橋の側から攻擊を開始した。

盛中F・Wの急激なマスドリブルで中央近く攻め入つて來たが盛中フォーワードありタイト・スクラムとなつた。岩中球を得T・Bの攻擊に入つたが藤原タックルされルーズとなり後中央約二十ヤードほど攻め入つたタッチとなり、いよいよ肉彈搏擊の戰闘となつた投げ込まれた。球はルーズとなつて緩慢なドリブルで盛中陣に流れていつた。岩中調子よく球を味方にヒール・アウトしていたがバックメンのパスの失さくからたびたび好機を逸する。

二十五ヤードに密集が移つてゆく時に岩中球を得、太田、川畑、川村見事なパスでウヰングの桐野は廿五ヤード突破したがゴール前で猛烈なタックルに逢ひルーズとなる、岩中よくヒール・アウトし松浦ノー・マークで最初のトライをする、歡聲はどつと岩中側に上つた。(ゴール成らず)七分盛中は、岩中を二十五ヤード、三四ヤード邊のタッチに壓迫したが岩中がんばつて、まもなく中央線まで盛り返す岩中F・W敵をあたかも嵐のやうに吹き捲つて守勢から攻勢に瞬く内に轉じてしまつた。盛中は味方の二十五ヤード内に侵入してゐる岩中に双向ふ事苦戰又苦戰してゐるうち球は再び岩中に出た距離を深くしてまつてゐるT・Bに攻擊がうつる藤原、川畑と渡つて坂本の應援で又右中央にトライ(ゴール成らず)十七分盛中は中央二十五ヤード前にキック出たが岩中にもなく特意のマス、ドリブルで中央深く前進しルーズから出た、球を柳澤眞直に盛中陣深く蹴込み二十五ヤード前のチャンスを作りタッチ三

度繰返してからルーズに岩中よく球をヒール・アウトし右から左にT・B全部の見事なパスで最後の桐野左隅に飛び込んで又トライ（ゴール成らず）二十分中央線上兩軍猛烈なキック戰となり、互に陣深くキックされ心膽を寒からしめ混戰又混戰からしてゐる内にハーフ・タイムとなる。〔9―0〕のスコーアで前半岩中リードす。

後半は前半と違つて奮起した盛中F・Wは斷然と強く、岩中は二十五ヤード内に壓迫され、味方の右隅でキャリー・バックとなりタイトより盛中ヒール・アウトし我は之をつぶしチャンスを得て中央まで攻めたがルーズとなり敵はヒールアウトし、敵のT・Bのセンターが單獨でオープンドリブルに我がT・B線を突破して右に最初のトライをなす。この攻撃法はむしろ冒險であつた。

（ゴール成らず）五分中央線を挾んで緩慢なトリブルで一進一退してゐたが盛中陣十ヤード・ライン左でタイト・スクラムとなり岩中球を得、坂本スクラムの右を廻り盛中の左翼を突破せんとしたが盛中其方面の防備が全く固いと見て取つたので戰法をブラインドを突くといふ極めて平凡と云ふべきか、ノウ・マークとなつてゴール直下に後半最初のトライした、ファイン・プレーあり、（ゴール成らず）▲九分盛中又盛んに深いキックをもつて岩中のバックを衝き或はタッチへ出して堂々强襲するに反し岩中軍少し疲勞を覺えた樣だつたが、奮然と最後の總攻擊を開始しバックメンは球を得るたびにパントを盛んに上げ盛中のバックを攪亂さす戰法をもつて攻擊を續けてゐる内▲二十分戰鬪は盛中陣廿五ヤードのタッチからルーズとなつてゴール前に密集が移り行く時盛中球をヒール・アウトしオプン・ゲームで岩中のT・B線を突破せんとパスをされたが田子球をハンブルしタイト・スクラムとなつたのを岩中F・W押切つてバックローの藤森球を拾つてトライす、（ノウ・ゴール）

▲廿三分盛中も最後の總攻擊の火蓋を切り猛烈なトリブルで攻擊するに對し岩中巧なオープンプレイで盛り返し試合は依然として中央線を對峙して砲火を交へてゐる廿六分岩中F・W堂々たるプレイを見せてゐるに反し盛中ややもすればラグビー精神に反するかの樣に思はれる點もあつた。タイムアップ直前中央ルーズからヒールアウトされた球は遂に岩中の得る所となつて、太田、藤原と渡り藤原よろめきながら川畑へパスしたのが川畑ハンブルし廿五ヤード内のルーズとなり盛中陣廿五ヤード線上に混戰を續けてゐたが盛中菊池の好キックで中央に戰鬪がうつり其後兩軍、戰線に異狀なく池田氏の終戰を告げるホイッスルは黄昏の空に響いた。

フキールドを埋め應援に聲を乾らし鈍い初冬の陽を浴びながら雄々しいゲームを六十分間見物した兩校應援團は昭和四年十一月三十日岩中盛中對抗ラグビー第一回戰の結果が明かに決定されたことを知つたであらう。

汗を握り呼吸つくひまもなかつた緊張は俄かに緩み試合に奮した人々の顏は冷い夕風をはじめて感じたのであつた。兩校の戰士はかく會しかく別れた無殘の敗北を招いだ盛中チームは何百の應援團の歌ふ校歌の中に涙にむせるのだつた。また幸にも勝利の喜びを得た我チームはひそ〳〵と夕暗せまる上田原頭を去り行くのであつた。

兩校メンバー

中	津井		
岩	澤浦		
中	藤橋		
盛	森内		
高	田本		
昆	原畑		
葛	村野		
加	嶋		
寒	梅	F.W	
柏	石	F.W	
武	柳	F.W	
東	松	F.W	
太	佐	F.W	
柏	高	F.W	
田	藤	F.W	
菊	小	F.W	
佐	保	F.W	
菅	太	H.B	
速	坂	H.B	
中	橋	F.W	
盛	藤	F.W	
高	村	F.W	
昆	原	F.W	
葛	藤	F.W	
加	條	F.W	
寒	代	H.B	
柏	葉	H.B	
武	子	T.B	
東	池	T.B	
太	藤	T.B	
柏	原	T.B	
田	藤	F.B	
菊	戸	F.B	
佐			
菅			
速			